

日本赤十字社三重県支部創立 130 周年事業

日本赤十字社三重県支部創立 130 周年記念年大会



日本赤十字社三重県支部は、明治 22 年 10 月 19 日に創立されて以来、令和元年をもって 130 周年を迎えました。これを機に、これまで赤十字事業を支えていただいた方々への感謝の意を伝えるとともに、県下赤十字関係者が一堂に会し、さらなる赤十字精神の高揚と赤十字事業の進展に寄与することを目的とし「日本赤十字社三重県支部創立 130 周年記念大会」を開催しました。

令和元年 10 月 19 日に三重県総合文化センター多目的ホールにて開催した本大会には、赤十字ボランティアをはじめ、赤十字の活動に賛同してくださる支援者及び地区区分などの関係者約 340 名にご出席をいただきました。

第 1 部では、日本赤十字社の富田博樹副社長、野呂昭彦支部長から、寄付、ボランティア活動など



(日本赤十字社三重県支部創立 130 周年記念年大会 第 1 部)

の赤十字事業に顕著な功績のあった個人や法人・団体の各代表者に、有功章や感謝状等をお渡ししました。また、赤十字の絵画・書道コンクールの上位入賞者にも表彰状をお渡ささせていただきました。

続いて行われた「体験発表」では、平成30年西日本豪雨災害で日赤こころのケアチーム第2班として派遣された、伊勢赤十字病院 公認心理師 中井茉莉さんから、こころのケアを通し被災者の方々の災害による不安の軽減とストレス緩和等の必要性を訴えました。

第2部では、津市出身でレスリング五輪三連覇の吉田沙保里さんをお迎えし、「何事も夢や目標を持って、チャレンジする大切さ」についてご講演をいただきました。



(体験発表)



(吉田紗保里さんによる記念講演)

日本赤十字社展 ―赤十字人道の軌跡―

三重県支部創立130周年を記念して、これまでの赤十字活動の歩みを振り返るとともに、新たな時代への始動に向けて「日本赤十字社展 ―赤十字人道の軌跡―」を三重県総合博物館（MieMu）で開催しました。

展示会では、赤十字の創設にかかわる資料や歴史的な活動について、貴重な資料、写真、グラフィックパネルなど4つのテーマに沿って展示しました。

1. 開催期間 令和元年10月19日（土）～11月4日（月）
2. 会場 三重県総合博物館（MieMu） 2階交流展示室
3. 来場者数 1,975人



(日本赤十字社展 ―赤十字人道の軌跡―)

4. 展示内容

①「赤十字の誕生」

赤十字の始まりは 1859 年イタリアで起こったソルフェリーノの戦い。その惨状を目の当たりにしたアンリー・デュナンが、負傷した兵士を敵味方の区別なく自発的に助けた行いが、現在の赤十字活動へとつながっています。

その活動を広く伝えるためデュナンが自費出版をした「ソルフェリーノの思い出」第 2 版の展示や、昭和 51 年、東郷青児自身がソルフェリーノに取材に赴き、博物館で関係資料等を調査し描いた同社所蔵の絵画「ソルフェリーノの啓示」等を展示しました。



(ソルフェリーノの啓示 東郷青児作)



(ナース像)

また、明治 10 年 5 月 1 日、初代社長となる佐野常民が日本赤十字社の前身「博愛社」を設立する際に政府に許可を願った「博愛社設立請願書」等を展示しました。



(「ソルフェリーノの思い出」第 2 版)



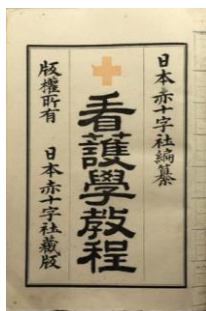
(博愛社設立請願書)

②「救護活動の歴史」

ここでは三重県支部において取り組みました看護婦の養成のはじまりから、戦時救護、災害救護、引き揚げ援護活動等の活動について展示しました。

日本赤十字社は、明治 23 年から日本赤十字社病院の中に看護婦養成所を設け、看護婦の養成を行いました。

明治 29 年に刊行した独自の教科書「看護学教程」の展示や、明治 21 年の日本赤十字社における最初の災害時の救護活動「福島県磐梯山噴火被災者救援」や、ロシア革命でシベリアに残されたポーランド人孤児達を日本経由でポーランドに帰国させた、日本赤十字社の最初の外国人難民支援活動をパネルや絵画等で紹介しました。



(看護学教程)



(絵画「ポーランド孤児送還図」)

また、第二次世界大戦当時、救護員として中国大陆や東南アジア等の戦場に延べ3万数千人の医師や看護師を派遣していました。「救護看護婦戦時召集令状」や、看護師たちが、日本を出発する際に着用していた濃紺の制服、日々の絶え間ない看護活動を象徴する白の制服「ふたつの看護服」を展示しました。



(救護看護婦戦時召集令状)



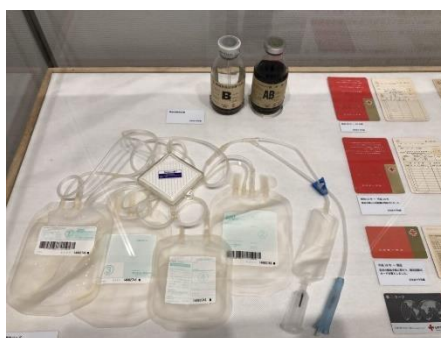
(ふたつの看護服)

③「血液事業のあゆみ」

「生命の大切さ」について学んでいただけるよう、血液事業のこれまでの歴史とともに、三重県での取り組みや献血の意義や必要性についてパネルや資料で展示しました。また、時代に沿った血液事業の移り変わりについて、昭和27年からの現在までの「献血手帳やカード」、「採血瓶」等を展示しました。



(「血液事業のあゆみ」)



(採血瓶・歴代の献血手帳)

④特別展「平成の災害と赤十字」

平成の30年間に日本赤十字社が行ってきた救護活動を通して、平成の災害を振り返る特別展を併せて開催しました。ここでは救護の現場で実際に使用している資機材、救援物資、救護日誌等を当時の写真等と紹介しました。

また本企画展は、過去の災害を振り返るだけでなく、近い将来起きるといわれる南海トラフ地震、各地で頻発している豪雨被害など、今後発生が予測される災害への備えていただけるような教材や資材の展示も行いました。

なお本企画展は平成31年2月～3月にかけて日本赤十字社本社で開催し、平成31年3月29日に天皇皇后両陛下の行幸啓を賜っております。



(特別展「平成の災害と赤十字」)

「日本赤十字社展」関連イベントの実施

「日本赤十字社展—赤十字人道の軌跡—」の関連イベントとして、三重県総合博物館（MieMu）の3階活動コーナーで、「赤十字親子で学ぼう！」イベントを実施しました。

1. 開催日 令和元年10月20日（日）、10月22日（火・祝日）、11月2日（土）、11月3日（日）、11月4日（月）
2. 会場 三重県総合博物館（MieMu） 3階活動コーナー
3. 参加者数 281人



4. 内 容

①キッズ献血セミナー

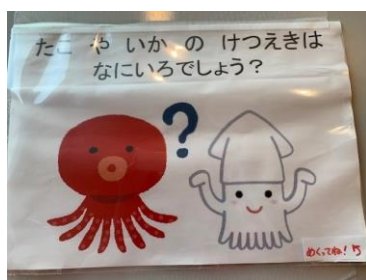
赤十字が災害救護活動の際に実際に着用しているものと同じデザインの救護服、白衣やワンピース型のナース服を準備し、試着した子どもたちに記念撮影をしていただきました。

子どもたちがとても嬉しそうに救護服やナース服を試着し、ポーズを取って保護者の方に写真を撮ってもらっている姿がとても可愛く、印象的でした。

また、親子で献血の大切さについて、クイズ形式で楽しんで学んでいただきました。



(子ども救護服を着ての撮影)



(親子でクイズに挑戦！ 皆さんは分かるかな？！)

②「無線体験」コーナー

このコーナーでは、無線奉仕団によるアマチュア無線機器などの展示、親子で糸でんわや無線機を使った通信体験などを行い、電波の不思議や無線の魅力について楽しく学びました。



(無線奉仕団の皆さん)



(無線機器の展示)



(糸電話を使って交信)

③「とっさの手当の体験」コーナー

安全奉仕団によるこのコーナーでは、救急車が来るまでに勇気をもって行動ができるよう、親子で心肺蘇生法を体験してもらいました。



(親子で一緒に心肺蘇生法を体験)

④「点訳体験」コーナー

このコーナーでは点訳奉仕団が、点字を難しく捉えず「かわいい」や「これおもしろい」と身近に感じてもらえるように、子どもたちに点字のルールを説明した後、点字器を使って自分の名前や好きな文字を打った自分だけの「オリジナルしおり」作りに挑戦してもらいました。



(点字のルールの説明)



(自分だけの「オリジナルしおり」作り)

⑤「防災すごろく」コーナー

青年奉仕団によるこのコーナーでは、サイコロを振り、止まったマスで防災に関するクイズを出題し、すごろくを楽しみながら子どもたちに防災のことを学んでももらいました。

⑥ワークショップ

1 階の日本赤十字社展の受付でスタンプカードを貰い、赤十字の各ブースで学びながらスタンプを集めていただいた子どもたちには、けんけつちゃんの缶バッチのプレゼントや、ハートラちゃんのプラ板キーホルダー・おめん作りなどのワークショップも楽しんでもいただきました。



(赤十字展は奉仕団の方々と運営)



(スタンプラリースタート！！)



(ハートラちゃんのプラ板作り)

また、イベント会場において令和元年台風第 19 号災害義援金の募金箱を設置し、ご来場の皆様から義援金 12,195 円をお寄せいただきました。

本イベントは多くの子どもたちや保護者の方に日本赤十字社を知ってもらえる良いきっかけになったのではないかと思います。

この活動を通して、1 人でも多くの方が赤十字の活動に興味を持ち、共に人道の精神に基づいた活動ができる仲間が増えることを願っています。

赤十字作品展「絵画・書道」コンクール

日本赤十字社三重県支部創立 130 周年記念事業の一環として、赤十字の活動への関心をさらに高めることを目的に、赤十字作品展「絵画・書道」コンクールを開催しました。

1. 対 象 小学校、中学校、高等学校の児童・生徒
2. 応募締切 令和元年 9 月 10 日（火）
3. 応募結果 ・ 応募総数：1,630 点（絵画 145 点 書道 1,485 点）
・ 応募校数：86 校



（作品募集チラシ）



（審査のようす）

4. 作品展示

期間	場所
令和元年 10 月 19 日（土）～令和元年 11 月 4 日（月）	三重県総合博物館（MieMu）
令和元年 12 月 12 日（木）～令和 2 年 1 月 9 日（木）	伊勢赤十字病院
令和 2 年 1 月 15 日（水）～令和 2 年 2 月 14 日（金）	三重県赤十字血液センター



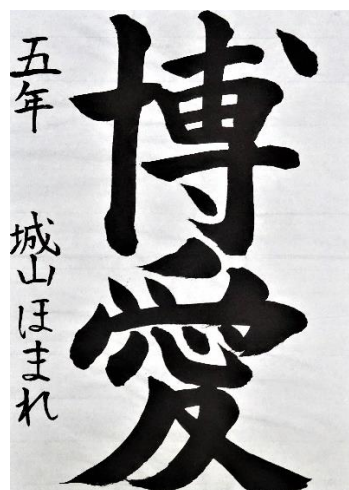
（三重県総合博物館（MieMu）での展示）

5. 受賞作品

【三重県支部長賞】



津市立明小学校 3年
林 大智



伊勢市立城田小学校 5年
城山 ほまれ

【三重県青少年赤十字指導者協議会長賞】



三重県立木本高等学校 2年
浦狩 朋乃香



伊勢市立城田小学校 3年
中村 康佑

【三重県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞】



津市立久居中学校 3年
森崎 琉偉



明和町立明和中学校 2年
田畑 真央

【優秀賞・絵画の部】

津市立高野尾小学校	2年	井ノ口万葉
松阪市立幸小学校	2年	坂本 結音
津市立千里ヶ丘小学校	5年	田中 葵
津市立成美小学校	5年	櫻井 美仁
津市立栗真小学校	6年	遠藤 道治
松阪市立三雲中学校	1年	北浦 朱莉
松阪市立三雲中学校	1年	藤原 遼生
松阪市立三雲中学校	2年	大仲 吟
松阪市立三雲中学校	3年	安保 大地
松阪市立三雲中学校	3年	浦出 愛子
セントヨゼフ女子学園中学校	2年	大榎 優
セントヨゼフ女子学園中学校	2年	小河 胡実
セントヨゼフ女子学園中学校	2年	西村 野花
セントヨゼフ女子学園中学校	2年	西村 晴香
セントヨゼフ女子学園中学校	2年	杉本 那奈
津市立久居中学校	3年	金屋 汐音
津市立久居中学校	3年	宮本 彩加
津市立久居中学校	3年	朝倉つむぎ
津市立久居中学校	3年	庄山 可純
津市立久居中学校	3年	野垣内友紀
津市立久居中学校	3年	岡 亜寿美
津市立久居西中学校	3年	吉尾 康一
津市立久居西中学校	3年	山川 薫
三重県立木本高等学校	1年	山田葉乃音
三重県立木本高等学校	1年	宮崎あゆ梨
三重県立木本高等学校	2年	大川 真愛
三重県立久居農林高等学校	1年	後久 里桜

【優秀賞・書道の部】

津市立安東小学校	3年	坂本 朱嶺
津市立南が丘小学校	4年	大仲 結心
名張市立美旗小学校	3年	山本 責翔
津市立南立誠小学校	4年	桑田 咲歩
松阪市立大河内小学校	4年	藤沢きらり
暁学園暁小学校	4年	水谷あおい
津市立養正小学校	4年	三宅 佐和
津市立戸木小学校	4年	中西 永
伊勢市立城田小学校	4年	柳原 心晴
津市立村主小学校	5年	真川 翠
津市立豊津小学校	5年	一色 咲良
津市立戸木小学校	5年	木村 真子
津市立戸木小学校	6年	松田 怜奈
津市立豊が丘小学校	5年	伊藤さくら
伊勢市立城田小学校	5年	南谷 美結
伊勢市立城田小学校	6年	小林 夢奈
津市立豊が丘小学校	6年	坪井麗美伽
津市立養正小学校	6年	ファーロング 美唯奈
伊勢市立城田中学校	1年	倉井 優
伊勢市立城田中学校	2年	坂口 結衣
伊勢市立城田中学校	2年	南谷 綾香
四日市市立富洲原中学校	2年	水谷 奈緒
伊勢市立港中学校	3年	木下奈々花
松阪市立三雲中学校	3年	楠村まゆ佳
津市立久居中学校	2年	山本 珠緒
四日市市立富洲原中学校	3年	樋口 美月
四日市市立富洲原中学校	3年	内田 梨勢